

人権教育啓発講座 始まる

「同和問題をはじめとする様々な人権問題に対して理解と認識を深める」ことを目的に、新居浜市、市教育委員会、愛媛県人権教育協議会新居浜支部が主催する標記の講座が瀬戸会館で始まった。

「人権のつどい日」でもある9月11日(日)はその一回目で、新居浜市の工藤順市民部長が開講式の挨拶をした後、「人権・同和教育現地研修会<フィールド・ワーク>」がスタート。募集定員は20名程度としていたが、当日は小・中学校の教職員など54名が集った。参加者は講師の高津章人(泉川公民館主事)さんと松本秀樹(新居浜南高校教諭)さんが率いる2班に分かれて、事務局が用意した資料『差別との戦いの歴史に学ぶ』を手に「水汲み場跡」など7か所を巡る研修が行われた。

なお、この講座は全3回の構成になっており、次回10月26日(水)と12月6日(火)もそれぞれ瀬戸会館で実施される予定です。



部落改善運動の
先駆者

にしはら しんいち
西原 菜一氏の

銅像前にて



瀬戸会館だより
平成23年10月号
新居浜市瀬戸会館
〒792-0821
新居浜市瀬戸町7-30
E-mail
seto@city.niihama
.ehime.jp
TEL 0897
41-5859
(FAX 兼用)

<参加者Aさんの感想>

今回のフィールド・ワークでは、7か所巡った。何十年の時を経て、その多くは日常の風景の中に溶け込んで静かにたたずんでいた。今日の研修がなければ、何気なく通り過ぎていたかも知れない。しかし、話を伺うことで「立ち止まる」場所へと変わった。

どの研修ポイントも丁寧に手入れされていて、一見して、現在までずっと語り継がれ、大切に守り続けられてきたことが分かった。

そこに在る人々の熱く強い思い。その思いが胸にズシンと響いた研修であった。

<参加者Bさんの感想>

秋晴れに恵まれた中、新居浜南高等学校の松本先生の引率のもと、新居浜市に残された“差別との戦い”の跡を見学しながら、教育に携わる者として、これからの自分のあり方を考え直すいい機会となりました。

庭先に残る井戸の中は、丸い石がひとつひとつ丁寧に積み重ねられ、井戸の底には今も水が湧いていました。井戸からは、生きていくうえで欠かすことができない水を得るための人々の願いが、強く伝わってきました。また、全国に先駆けて部落改善運動を推進した西原菜一氏の功績にも、感服するばかりでした。奥様も、幼児を持つ母親たちに声をかけ、子どもたちを預かり教育を普及させるお手伝いをされていたとか……。差別に負けない力や、教育力をつけようとしていた人々の熱い思いを受け止め、私自身、教育の実践者として一層励んでまいりたいと気持ちを新たにいたしました。

みなさん 発表の場をひろげて

9月初め、所用で旧桃山短期大学があった新居浜市高齢者生きがい創造学園をおとずれた。

正面玄関を入ると「今月のロビー展」の案内が目につく。思わずのぞいてみると書道の二つのグループの作品が並び、そのひとつ『書楽』のグループは50点を超える力作が続く。

講師の小野博峰さんこと小野博さんは瀬戸会館活動連絡協議会(ゆめじゅく会)の会長をされ、篆刻教室で指導されている。このロビー展では『温故知新』『龍』ほかにいくつかの作品が飾られている。

また、サークルウッドの飯塚紀夫さんも「ブレーメンの音楽隊」という組み木の作品を同じロビーに出展。当館の『であい展』は8月中旬だったが、その後も、それぞれみなさんが次々と創作を続けているようすがうかがえた。



10月公演
回轉木馬
おはなし会
10月5日予定
10:40~11:00
瀬戸児童館

平成23年10月 人権・同和教育関係行事予定

12日	水	高等学校部会(第6回)	新居浜工業高等学校
24日	月	東予地区人権・同和教育研究協議会事前研修会	四国中央市

人権あらかると

障がい者の「障」はいいの？

ホーキング青山

デビューしてからの15年間、世の中もオレもいろいろなことがあったが、この間とにかく変わらずに聞かれ続けたことが一つだけある。

それは、「どうすれば障害者と健常者は平等になったと思いますか？」という質問。

これ、すごく聞こえはいいけどさ、“平等”ってなんだろうね。ホントに障害者と健常者が“平等”になることがいいのかなあ？っていうか障害者同士だって健常者同士だってぜんぜん“平等”じゃないのに、なんで障害者と健常者だけ無理に“平等”にしなきゃならないんだろう、と思ってしまう。

最近、「障害者」という表記が問題視されているという。なにが問題かという「障害者」の“害”という字が、「障害者が害のようだ」ということで「障がい者」と表記しようという動きがあり、これに対し「賛成」という声や「無意味だ」という反対意見まで賛否両論あるみたいで、オレもどっかで聞かれたことがあった。で、このとき言ったんだけど、「賛成か反対以前に『障害者』の“害”の字をひらがなにしても、“障”の字はどうなの？これだって“世間の障り”って感じじゃないの？」って聞き返したら「・・・いやっ・・・あのっ・・・」と困った挙句に「とりあえず“障”の字はいいんです」だって。いい加減なもんだよ。

オレが、デビューした直後に実際に取材されて意見を求められたんだけど、ある学校の運動会でやる「障害物競走」を「障害者に配慮して」「山あり谷あり」という名称に変えたんだという。だけども、こんなことして一体どうなるっていうんだろうね。競技の名前を変えれば、聖人君子が育つとでも思っているのかね。

ホーキング青山 先天性多発性関節拘縮症のため両手両足が使えない。94年にお笑い芸人としてデビュー。 ホーキング青山『差別をしよう』（河出書房新社）より

人気作家の本にはご予約を

毎月ほぼ2回、水曜日の午後2時前に新居浜市の移動図書館『青い鳥号』が瀬戸会館にやってくる。

瀬戸会館には14時から14時40分までの滞在。常連さんの中には、暑い日も寒い日も、雨の降る日も到着前から待っていて、本を新たに借りかえる。『青い鳥号』に乗務する職員さんにとって、季節の変化を直接受ける厳しい職場ではあるが、「待つ人のことを考えると、時間通りの運行を・・・」と係りの人はにっこり語る。

利用者の傾向としてNHKの大河ドラマ関連のものや時代ものが好まれ、いろいろな賞をとった作品、人気作家の本には次々と予約が入るといふ。『青い鳥号』の車内は意外に広く、通路の両サイドには児童向けの本がある。そこには「大常識シリーズ」がずらりと並んで目につくが、「宇宙の大常識」「病気の——」「お金の——」などと子ども向けの本なのに大人の読者も多いとか。

新刊本は月に2～3回入ってくるが、子ども向けも大人向けも助手席の後ろあたりに置かれているので要チェック。この車には、2500冊の本を積んではいるが、ここに載せていない本もリクエストカードに記入すれば後日連絡がくる。リクエストは一人5冊まで。

また、別子銅山記念図書館では毎月2回『幼児お話し会』が催され、10月は12日と26日の水曜日15時30分から16時まで予定されている。

夏まつり余聞



「秋」の声を聞いてもまだまだ暑い日が続いています。今年の「瀬戸・寿夏まつり」から「夏まつり」を支えた活動のひとつをここにご紹介します。

祭りの夜店で楽しむ「ヨーヨー釣り」の風船玉づくり。夏まつり当日の暑い日中、子ども会役員の沼田さんと酒井さん親子6人が汗だくになりながら風船玉づくりに挑戦。ゴム風船に注射器で水を少し入れ、さらに空気をいっぱい入れてふくらまし、ひもで結んで「ハイ！できあがりー」のはず。だが水の量やひもの結びがムツカシイ。それでも数をこなすうちに手さばきも良くなった。その日が暮れて、夏まつりの本番。夜店では、沼田さんと酒井さんは、昼間奮闘した汗の結晶のたくさんの風船ヨーヨーを前にして、明るい声で「いらっしやーい！」と呼び掛けていた。



10月の主な行事予定

10月5・19日(水)ー移動図書館(14:00~14:40)

10月11日(火)ー **人権のつどい日(19:30~21:00)**

「これからの人権・同和教育」

10月26日(水) **人権教育啓発講座第2回(19:00~21:00)**

差別や偏見の解消をめざして

～輝いて生きるために～(石田伸一 西条高校教諭)

